令和6年1月23日

令和5年度 第1回

東大和市総合教育会議会議録

東大和市教育委員会

令和5年度第1回東大和市総合教育会議会議録

1. 日 時 令和6年1月23日（火曜日）午後2時00分～午後2時52分

2. 場 所 東大和市役所会議棟第1・第2会議室

3. 出席者 市長 和地 仁 美

教育長 岡 田 博 史

委員 岩 田 圭 子

委員 内 野 裕 子

委員 鈴 木 一 徳

4. 欠席委員 委員 藤 宮 志津子

5. 説明職員

教育部長 小 俣 学

教育部参事兼
教育指導課長
指導担当課長
(統括指導
主 事)

小 野 隆 一

教育総務課長 斎 藤 謙二郎

菅 野 恭 子

6. 書 記

庶務係長 長 瀬 由美子

主 事 浅 井 亮 介

○議事日程

第1 市長挨拶

第2 教育長挨拶

第3 協議・調整事項

東大和市教育に関する大綱（案）について

第4 その他

◎開会の辞

○和地市長 それでは、時間になりましたので始めさせていただきます。

皆さん、こんにちは。ただいまから、令和5年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本会議でございますが、東大和市総合教育会議運営要綱に基づきまして、会議を公開とし、また傍聴につきましても所定の手続により入室を認め、本会議を運営することといたします。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

◎市長挨拶

○和地市長 初めに、私から一言ご挨拶申し上げたいと思います。

改めまして、皆さま、こんにちは。市長の和地でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日、お忙しいところ、教育長をはじめ、教育委員の皆さまにおかれましては、令和5年度第1回総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。

また、皆さまには平素から本市の教育行政にご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、この総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4に定められており、地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議、教育を行うための諸条件の整備や、地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議を行うこととされているところです。

当市におきましては、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、この会議の開催を長い間見合わせておりましたが、私にとりましては初めて、また皆さまにとりましては久しぶりの開催となるところです。教育委員会の皆さまと一緒に、東大和市の目指す教育について、幅広くご協議しながら取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

限られた時間ではございますが、ご意見などを頂戴するとともに、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日はよろしくお願ひいたします。

◎教育長挨拶

○和地市長 それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。

次に、教育長からご挨拶をお願いしたいと思います。

○岡田教育長 本日は、東大和市の目指す教育について、具体的には東大和市の教育に関する大綱について、市長と教育委員との間で協議をする機会ですので、日頃感じていることをお互いに共有できればよいと思っております。

現在、予測困難な時代、そして不確実な時代というふうに言われております。そのような時代を生き抜いていく市民、特に子どもたちに必要な力、資質や能力というものはどのようなものなのか。また、どんな方向性で取組を進めていけばよいのか。率直な意見を出し合えればよいとも思っております。そして、今後、市長が定める東大和市の教育に関する大綱を基に、東大和市教育委員会におきましては、第三次東大和市学校教育振興基本計画やその他、個別計画を策定していきたいと考えております。

この総合教育会議におきまして、市長と教育委員会が教育について協議を行うことは、今の市民や子どもたちのためだけではなく、今後、東大和市の地域の中で生きる未来の市民、子どもたちにとって必要なことであるというふうに思っております。今後とも連携を密に取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

○和地市長 ありがとうございます。

◎協議・調整事項

○和地市長 それでは、早速ですが議題に入りたいと思います。

今回の協議事項は、東大和市教育に関する大綱（案）についてとしております。

東大和市におきましては、平成27年7月に東大和市の教育に関する大綱を定めているところではありますが、8年が経過しており、その間、子どもたちの教育環境においては、1人1台端末の導入によるGIGAスクール構想の導入により学習環境の大きな変化がありました。

また、教育委員会の組織においても、学校教育部と社会教育部の統合及び児童館や学童保育所を所管する青少年課を教育委員会に移管することにより、学齢期

の教育を連携して一括で行えるようにしてきたところであります。

私におきましては、令和5年5月の市長就任以来、約50年先の市制施行100周年を見据えつつ、経営の視点を取り入れながら、新しい時代に即した街のリノベーションを進めているところです。

様々な社会の変化の中で、子どもから大人まで全ての人を対象に、教育や文化がすばらしい東大和市に住みたい、住み続けたいと思えるようなまちづくりを目指し、このたび東大和市の教育に関する大綱（案）が出来上がりましたので、教育委員会のご意見をお聞きしたく、本日の議題とさせていただきます。

それでは、東大和市の教育についてに関して、初めに担当から説明をお願いいたします。

小俣教育部長。

○小俣教育部長 それでは、東大和市教育に関する大綱（案）につきましてご説明させていただきます。

お手元等に配付をいたしました大綱（案）につきましては、和地市長のご挨拶、その後1といたしまして位置づけ、2といたしまして基本理念、3といたしまして基本目標と施策の方向、4といたしまして各施策の実施についてという4項目で構成されておりまして、3の基本目標と施策の方向におきましては、詳細として基本目標の1、子どもたちの笑顔があふれるまちづくり、基本目標の2、心豊かに暮らせるまちづくりを記載しております。

それでは、内容についてご説明をいたします。

大綱（案）の1ページ、こちらにつきましては、市長から先ほどお話ありましたけれども、大綱の策定に当たりましての市長の思いを書かさせていただいております。

次に、2ページにおきましては、1の位置づけになりますけれども、この大綱につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3というのがございますが、そちらで定められております「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」とするものでありまして、同法の第1条の4に基づき、本日開催をしておりますこの総合教育会議で協議を行うものであります。

次に、3ページでございますが、3ページは大綱の位置づけと実施体制を概要図で表したものでありまして、この大綱の案につきましては、本市の最上位計画であります東大和市総合計画 輝きプランを反映して作成をしております、教育に関

する個別計画の最上位に位置づけるとしてございます。

続きまして、4ページをお開きください。よろしいでしょうか。

2の基本理念でございますが、こちらでは、自分らしさを大切に、心豊かに成長し続ける人、多様性を尊重し、他者への配慮や思いやりのもてる人、社会の一員として主体的に学び、協働し、役割を担える人、そして郷土を愛し、郷土を誇り、持続可能な社会を維持、発展させていく人、この4つを掲げてございます。このように、このような人に成長していけるまちづくりを目指し、最後の段落に示しておりますが、学校教育及び社会教育を充実し、誰もが生涯を通じて主体的に学び、支え合うことができ、身体的にも、精神的にも、そして社会的にも満たされるよう、全ての市民が学びを通じてウェルビーイングの充実を図るということを目指しますとしてございます。

続きまして、5ページをご覧くださいと存じます。

ここからは、基本目標と施策の方向になります。

最初に、基本目標1、子どもたちの笑顔があふれるまちづくりといたしまして、子どもたちの権利を守ること、資質や能力の育成、グローバル社会の一員として活躍できる人材の育成としております。

その下の施策の方向でございますが、(1)子どもたちの健全育成におきましては、地域、家庭、学校が連携・協働して、子どもたちの健全育成を推進し、その健やかな成長を支えることができるまちづくりを進めていきますとし、アでは、健やかな成長と自立を支える環境づくり、イとしまして、豊かな心を育む環境づくりについて定めてございます。

次に、その下の施策の方向(2)学校教育におきましては、良好な学習環境のもと、子どもたちの意見や個性が尊重され、学ぶ喜びを実感できる学校教育を推進し、一人ひとりが人間性豊かに成長することができる教育を進めていきますとしております。そして、アでは、生きる力を育む教育の推進、イとしまして、グローバル社会を見据えた人材の育成、そして次のページになりますけれども、ウでは、快適で充実した学校生活を支える教育環境づくり、そして、エ、地域、家庭、学校の連携による学びの充実、そして、オ、誰一人取り残さない全ての子どもの可能性を引き出す学びの保障について定めております。

続きまして、7ページをご覧くださいと存じます。

基本目標2、心豊かに暮らせるまちづくりといたしまして、生涯学習、スポー

ツ・レクリエーション活動を推進し、誰もが心身ともに健全で、心豊かに暮らせるまちの実現を目指してまいりますとしております。

その下の施策の方向（１）生涯学習におきましては、いつでも、どこでも、誰もが、集い、行動し、生涯を通じて学び続けられるよう、学習環境の向上に取り組み、豊かな人間性の実現と学習の成果を、より良い地域づくりのために生かし、地域社会の中でいきいきとした生活を送ることができるまちづくりを進めてまいりますとしております。また、ア、多様なニーズに応じた学習機会と学習情報の提供、イ、多様な学習活動を支える基盤の整備、ウでは、市民主体の文化芸術活動の推進、エとしまして、体験学習機会の充実について定めております。

そして、その下の施策の方向（２）平和、歴史文化におきましては、市民の平和意識のさらなる向上を図るとともに、地域の歴史や文化に親しむための環境づくりに取り組み、誰もが地域への愛着や誇りを感じることができるまちづくりを進めてまいりますとしております。また、ア、市民の平和意識の高揚、イ、地域の歴史的文化財の保存と活用の推進、ウとしまして、地域の自然等への関心を高める取組の推進について定めております。

続きまして、８ページをご覧くださいと存じます。

施策の方向（３）スポーツ、レクリエーションにおきましては、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の推進により、いつでも、どこでも、誰もが、スポーツ・レクリエーションを楽しむことができ、健やかな心と体づくりに取り組みることができるまちづくりを進めてまいりますとし、ア、スポーツ・レクリエーションを楽しめる場と機会の提供、イ、市民が利用しやすいスポーツ・レクリエーション環境の整備について定めております。

続きまして、９ページをご覧ください。

最後になりますが、４、各施策の実施についてといたしまして、この教育大綱は、東大和市総合計画 輝きプランを上位計画とし、各教育施策については、この教育大綱にあります基本理念を基に取り組みしていくものとします。また、実施に当たりましては、国や東京都の指針等のほか、市の計画を参照し、関係機関、地域の皆さまと連携しながら取組を行うこととしますとしております。

その下におきましては、他の指針等の参照におきまして、国の第４期教育振興基本計画、市の東大和市健幸都市宣言、東大和市子ども・子育て憲章をはじめ、関係する計画等を参照して各教育施策に取り組んでいくこととしております。

また、関係機関等との連携におきましては、公共施設の維持管理などにつきまして、市と教育委員会が連携し、一体となって課題解決に向け取組を行うこととするものでありますとしております。

概要でございます。説明は以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○和地市長 ありがとうございます。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと思いますが、大綱はこれだけのボリュームになっておりますので、少しずつカテゴリーに分けて意見を伺っていきたいと思っております。

初めに、少しお話ししたいことがございまして、今、市の公共施設、七小、九小を統合して、新しい学校として校舎も新しくするというような取組からスタートをしておりますが、そのほかの公共施設、特に社会教育に関わったり、市民の皆さまが集まったりするそういった場となる公共施設が同じように老朽化していますので、今後、安心して、そしてなおかつ今の時代に合った形で、様々なハード面に具体的に手をつけていかなければならないというような状況になっていきます。

その上で今私が考えているのは、やはりこの教育でございまして、社会教育や学校教育の視点から、様々な建物の内容であったり、配置であったりなど、教育を土台にしたまちづくりをしていきたいと考えております。昨今目にしている能登半島の大震災などを見ると、防災という意味合いもありますけれども、その防災のベースとなるのが地域コミュニティーであったり、お子さんとのつながりであったり、いろいろなことがあると思っておりますので、町をつくるという上で基本的な考え方としては、教育、学校、社会がともにある形であり、そのベースとなる考えとして大きな方向性を示すという意味で、今回大綱をもう少しリニューアルしようと思っておりますので、皆さまにおかれましてはそのような点も頭にとどめていただいて、教育から若干離れてしまうとは思わずに、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、4ページの基本理念のところについて、何かご質問、またはご意見、そのほか何か感じたこと、思ったこと、何でも構いませんので、よろしくお願いいたします。

岩田委員。

○**岩田委員** この基本理念に書かれている4つの丸印、まず自分らしさ、そして次に他者への配慮や思いやりといった全て自分の心にゆとりがあるときに実現できることであるように感じまして、さらに社会に、そして郷土のことにまで思いをはせるということは、やはり自分自身の心が豊かで本当にゆとりがないと、そういう考えは浮かんでできません。その心にゆとりを持つ何か方向を子どもたちにも見つけてほしいと思い、この順番がとてもよいと感じました。

○**和地市長** だんだん広がっていく感じですね。

ありがとうございます。ほかの方に説明するときに、そういうことも一緒に添えて話ができるといいですね。

ほかに何かございますか。

内野委員、お願いします。

○**内野委員** 私も岩田委員と同じような思いでして、やはり自分らしさを大切にというそのワードが、私自身も大切にしたい、心がけたい視点であるのは常日頃思っています。自分らしいとは何かということは解釈がとても難しいとは思いますが、やはり自分の気づきとか価値観を大切にされることで、喜びとか安心を得て、また次へ何かやろうという原動力にもなると思いますので、まずは環境として大人側からそういう心がけをすることで、子どもたちにも大事なこととして伝えていきたいと思えます。

○**和地市長** そうですね。自分らしさって確かに簡単に言うけれども、難しいことかもしれないですね。

ありがとうございます。

ほかにございますか。

鈴木委員、お願いいたします。

○**鈴木委員** 今、皆さんがお話しされたように、自分、他者、社会と広がってきて、さらに郷土が4つ目に出てくるのがとてもポイントになるかと思えます。その4つ目は郷土を愛しという表現になっていますけれども、要するに子どもも大人も自分たちが暮らしていく中で様々な問題を解決し、生活を充実していくということも一つの方向性として示されているのではないかと受け止めました。

以上です。

○**和地市長** ありがとうございます。郷土という言葉は皆さんどうですか。いいですか。なかなか最近郷土とは言いませんが、ふるさとというのもまた若干違うよ

うに思います。確かに郷土を愛しという部分はとても大切なことなので盛り込ませていただきましたが、この中に地域社会を大切にするとか歴史とか自然とか全部含まれてくると思うので、そのような意味合いを持って入れさせていただきました。

はい、どうぞ。岡田教育長。

○**岡田教育長** 今、教育委員の皆さんがおっしゃった自分らしさという個の部分、それから他者への配慮ということで他者、さらに郷土というようなことで地域、最後にウェルビーイングの充実を図るという言葉で締めくくられていますが、このウェルビーイングとは自分だけが幸せということではなく、うまく循環していて自分も他者も幸せになることによってその幸せな状況が地域にも及んでいくというようなことです。それらがこの基本理念に全部盛り込まれている感じがしまして、東大和市に住む市民、子どもも大人も地域も含めてみんなが幸せになり、住んでいてよかったと思っていただけるような意味合いがこの基本理念の中に含まれている感じがして、私はとてもよいと感じているところです。

○**和地市長** ウェルビーイングという言葉はいろいろなところで目にするように昨今なっていますけれども、具体的なイメージであったり、自分のこととして捉えるように言葉としてここに入れていただいていることで、より理解が深まり、今教育長がおっしゃったように、全体に良い循環が生まれて、その良い循環がさらに育っていくという大きな意味になりますので、そのようなことを多くの市民の方に感じていただければと思います。

ほかにありますか。大丈夫ですか。また最後に質問しておけばというものは、いつでも言っていただいても構いませんので、少し進みます。

次の5ページ、6ページに、基本目標1の子どもたちの笑顔があふれるまちづくりという形で設定させていただいて、施策などを示させていただいています。この件について、質問、意見、また思うことや感想などございましたらお願いいたします。

はい、どうぞ、岡田教育長。

○**岡田教育長** 5ページになりますが、施策の方向の(1)子どもたちの健全育成の部分において、4つの基本理念のどれが関連しているのか示されているので大変分かりやすく、方向性も定めやすいので、この記載の仕方は非常によいと思います。

また、子どもたちの健全育成のあの健やかな成長と自立を支える環境づくりについてですが、地域の中で健やかに学び成長でき、社会の一員として自立することができるようにありますが、基本理念の中にも社会の一員として主体的に学び、協働し、役割を担えるとあるので、その基本理念も子どもたちの健全育成の部分に加えてもよいかと思いました。

続いて、安心な居場所づくりや様々な体験機会の提供とありますが、これは非常に大事であると思っていて、特に居場所づくりについては、不登校児童・生徒のこともありますが、一人ひとりの学びを考えたときには、いろいろな環境を整えておくということは大事かと思えますし、同じように様々な体験の機会というのも、市長もこれまでおっしゃっているように、いろいろな市民がこの地域に限らず様々な体験をすることによって学びを充実していく、誰もがというような内容となっていることについては、非常によいと思います。

以上です。

○和地市長 内野委員。

○内野委員 不登校のお子さんが増えているという現状ですけれども、スクールソーシャルワーカーも増員して対応して下さったりとかかなり近年強化はされていると思いますが、やはり不安などを抱えている保護者の方にもしっかりと支援をしていただいたり、お子さんはもちろんですけれども、そういうあたりでやはり環境ですが、人的環境も含めて強化するということが、これからより大切なことではないかと思っております。

○和地市長 そうですね。ここは子どもを中心とした内容になっているので、どうしてもその保護者の皆さまのことにまでは触れていないですけれども、保護者の皆さまをケアすることは、ひいては子どもたちのためになるということを踏まえると、どうですか。そのニュアンスが伝わればよいでしょうか。

内野委員。

○内野委員 はい。

○和地市長 ありがとうございます。

鈴木委員。

○鈴木委員 健全育成というと何か難しい感じがします。また、地域、家庭、学校が連携・協働して、この子どもたちの健全育成を推進するというようなところも難しいのですが、東大和市子ども・子育て憲章の1番目は、すすんで元気よくあ

いさつをしますということなので、特にコロナの感染が弱くなってから学校へ伺う機会が増えていますけれども、子どもたちが小学生も中学生も、特に小学校低学年の子も、廊下で擦れ違いながらその時々のおはようございます、こんにちはと元気に挨拶ができて、地域ではどうなのか分かりませんが、地域の方にも理解していただいて、みんなで挨拶ができるようになることが非常に大事なことで基本的なことかと思っております。

○和地市長 ありがとうございます。学校では、子どもたちはよく挨拶してくれますよね。

ほかはどうですか。大丈夫ですか。

このテーマは取りあえずここまでとして、次に7ページ、8ページの基本目標2、心豊かに暮らせるまちづくりについて、ご意見やご感想、質問など伺いたいと思います。

岩田委員。

○岩田委員 市民の方が、市民文化祭などでたくさんの知恵を出すなど、いろいろなノウハウを持っていらっしゃる方がたくさんいるということを文化祭を通して私自身も実感していて、本当に必要なときに必要なことが学べる機会が多いということは素晴らしいことであると考えています。自分自身も毎日が勉強と思いながら、本当にそのような機会にも恵まれて、それをまた子どもたちにもこういう機会があることを広く発信をして知っていただきたいです。大人も子どもも一緒になって学べるということがとても大事なことなのかと感じました。

○和地市長 本当にたくさんの市民の方がいらして、文化祭のときは本当に驚いてしまいます。このアのところの学習機会と学習情報を提供しますというところが今のお話ですと非常に重要なことに思えまして、今も結構市民の方々が企画運営をしていただいていますけれども、さらにそのような部分も充実できるようにしたいです。

ほかは何かございますか。

内野委員。

○内野委員 コロナ禍の小・中学校の校外学習で思うように他市に行けなかったときに、市内の狭山緑地ですとかそういったところに結構足を運んで、こんなよいところがあったという声がたくさん聞かれたというのを私も耳にしまして、改めてやはり東大和の良さとか、本当に遠くに行っているいろいろな土地を見てくること

も大事ですけれども、東大和にもこんな魅力があるということをきくと子どもたちもたくさん感じる事ができたここ二、三年であったと思いますので、子どもたちの力でまた東大和の良さを発信していけるような機会というものを設けられたらよいというふうにも感じました。

○和地市長 近場ですといつでも行けて見落としがちですけれども、そのような魅力あるところを様々な機会を通して子どもたちを中心に、もちろん市民の方全員に知っていただきたいと思いますので、(2) 平和、歴史文化のイとウなども具体的にもう少し機会を増やしていけたらと思っています。

ほかは何かございますか。

岩田委員。

○岩田委員 (1) 生涯学習のエの体験学習機会の充実というところで、私自身もそうですけれども、本物を見ることは非常に大事なことであると感じていますが、子どもの頃に見たものは本当に永く心に残ってしまっていて、特にプロの方のものは非常に感動したことを覚えています。そのような体験をすること、例えば芸術でもスポーツでも何かよいものを目に触れさせるということが必要なことであると感じています。

○和地市長 同感です。

どうぞ、岡田教育長。

○岡田教育長 恐らく中学校のほうで少しずつ進めている部活動の地域移行などにも絡んでくるとは思いますけれども、今、市民の方や地域の団体からも一緒にできますというようなお話を伺ったり、小学生も一緒に参加したりなど、中学校という枠だけでない体験学習のような機会にもなりつつあるといいでしょうか。そのような意味で、こちらの項目も非常によいと思っています。子どもも大人も障害の有無にかかわらずというような温かさも感じるとは思います。

○和地市長 余談になってしまいますけれども、大学などでは全国から生徒が集まってくると思いますが、中学時代の思い出話などをすると、本当に地域によって違うと感じたのを今でも覚えています。例えば、九州では当たり前の体験学習があるのに私が育ったエリアではそれはなかったのですが、別のものはあったりなど、中には本当に少ない地域だったということに全国の人と会って気づいているお友達もいたりしたので、育ったところでそんなにも違うというのは今でも忘れないです。東大和市で育った子どもたちが一つでもよい体験があったと大人になってから気

づくこともありますので、そういうものは様々なところで増やしていきたいと思っているところです。

もちろん費用がかかるものもありますけれども、先ほど岩田委員がおっしゃっていただいたように、市内にも様々な知見や技術を持っていらっしゃる市民の方がいるので、そういう方から教えていただく機会があってもよいとも思いますし、世界の広さを知るきっかけにもなるので、1年に1回ぐらい本物を見てよい刺激を受ける機会があってもよいとも思ったりしています。

ほかにどうでしょう。

鈴木委員。

○鈴木委員 私は自分の反省も込めての話になりますが、この生涯学習あるいはスポーツといったときに、うまくできないからとってためらってしまいます。率直に申し上げますと東大和の歩こう会は何年か参加しては、元気なときは狭山湖のほうまで歩いていましたが、それ以外のことは、例えば具体的に言うと体育協会の元会長から卓球に誘われているんですけども、結局自分が動けなかったらうまくできないという気持ちが先に立ってしまって、本当は自分の能力に応じて楽しめるような状態になればよいと思ってしまいます。それが私の反省なのですが、それでも子どもたちも大人もそれぞれの能力において、勉強もスポーツも楽しくできるような環境があってもよいと願っているところです。

○和地市長 野球をしているからといって全員がプロ野球選手やメジャーリーガーになるわけではないように、いろいろなスポーツやレクリエーションは楽しむ形でも入ることができるような、鈴木委員は反省とおっしゃっていましたが、その入り口のところの敷居を下げるなどして楽しむ会ですというようなことをもう少し伝わる形にすると参加しやすいのかと思ったりもしますが、最近体育館で行われているスポレクなどはユニークなスポーツが多いので、そういうところから入り口として入っていただけるようにしてもよいのではないかと思います。ありがとうございます。

ほかにございますか。大丈夫ですか。

では、あとは9ページの各施策の実施についても何かご意見、ご感想などあれば教えていただければと思います。大丈夫でしょうか。

岩田委員。

○岩田委員 先ほど市長も関係機関との連携というところで七小、九小の統合のお

話に触れられていましたけれども、偶然学区内に住んでいるものですから、新しい学校が建つということに非常に期待感をもっています。子どもや保護者の方はもちろんのこと、地域の人も地域としてどのように活用できるのか期待をしているところだと思いますので、ぜひ皆さんの期待に応えられるようによろしくお願いいたします。

○和地市長 ありがとうございます。これから先、これからのまちづくりは、教育というものを主体に捉えて、それはソフト面だけではなくてハード面も何か迷ったときに立ち返る大きなテーマとして掲げていきたいと思っていますので、そういった意味では、学校という名前の施設ですけれども、地域における学習やコミュニティーの核となります。学習というのは子どもの学習もそうですし、地域での社会教育の学習もそうですし、そういった形の皆さんが集まりやすく何か得られるような、そんな機会がたくさん盛り込まれている建物だというような感じにしたいと思っていますし、そうなることが先ほど言ったように災害などのとき、誰々さんいないねなんてなったりするようなそんなような地域の核となるようにしていきたいと思っていますので、七小、九小については、基本構想という形で個別具体のこういう構想で建物をつくっていきます、考えでやりますというふうに今つくらせていただいたところですが、その大本となるのも、今後も詳細を決めていくときにこの大綱をベースにしていきたいと思っていますので、よろしくお祈いします。皆さん期待していただいているのはうれしいです。

ほかにございますか。どうでしょう、全体を通してほかに何か気づいたこと、もしくは言い忘れていたことがあればお祈いできますか。

内野委員。

○内野委員 東大和は、今コミュニティ・スクールが全校で進められていますけれども、ようやくコロナ禍が明けて、今年度から地域の方が結構入ってくださり一緒に学校を盛り上げてくださっていることを感じますので、やはり地域、家庭、学校の連携というあたりが東大和の強みであると思いますので、また、子どもたちのためなら何か役に立てることがないかと言ってくれる地域の方がたくさんいらっしゃることに私も本当にうれしく思いますので、そのような地域の方の力が発揮できるように体制を整えたりなど力を入れていただけるとよいと思います。よろしくお祈いします。

○和地市長 ありがとうございます。

ほかはございますか。大丈夫でしょうか。

どうぞ、岩田委員。

○**岩田委員** 施策の中でグローバル社会を見据えたという部分があり、国際理解教育や国際交流の学習ということが書かれていますけれども、市長が思い描いている交流や教育のことでもし具体的にありましたらお聞かせいただきたいと思います。

○**和地市長** 私は自分自身の体験も通して、やはり海外の人と実際に交流することの重要性というものを大変痛感しています。それは、いわゆるグローバル社会でも活躍できるような人間というようにここにも書いてありますけれども、これには日本人である自分に気づく経験でもあると実は思っています、海外の人と実際に会ったときに、ある意味日本代表で行くわけですね。そうすると日本ではどうなのと聞かれたときに、改めて日本のことをもっと知らなければと思います。それは先ほどの郷土愛というところにもつながると思いますので、ビジネスであったり芸術やスポーツの分野であったりなど今海外に行かれている方も多い中で、やはり日本だけにとどまらず広い世界を見据えた中で気づきがあれば、それがきっかけに学習意欲にもつながり、これがしたいから学びたいというような形につながっていかねばと思っています。

具体的に、私が議員になってから10年以上ドイツのフランクフルトに近い町と交流をしていますので、向こうの市役所とも連携ができるのではないかと考えています。交換留学を試みたり、もしくはインターネットで作品交換を試みたり、あとは時差があるので難しいかもしれませんがインターネットでつながってみたり、そのようなことを、せっかく英会話にも力を入れているので、国内にも生かせる場所がありますけれども、やはり自分の言葉として相手に伝わる喜びと相手が出ていることが分かる喜びというのを本当に実際の場で経験してもらえるような機会をつくらせたいと思いますし、交換留学みたいな交流が実現できた場合には、地域、市民の方にホームステイの協力などを願うようなこともあると思います。その場合は、もう家族ぐるみで日本のおもてなしを試みたり、時には通じなくて困ってみたり、そのような経験をしていただくことも大変よい機会になるのではないかと考えていますので、ぜひ機会を設けられたらと思っています。

ほか何かございますか。

鈴木委員。

○鈴木委員 G I G Aスクール構想ということで、パソコンの端末が導入されて3年になるわけですが、非常にお金がかかることだと思いますけれども、つい最近参観した中学校のオンラインの英会話の学習などでは、パソコンの端末がなければ考えられないことですので、お金がかかることと教育効果ということを見ながら、学校とともに環境整備をしていただけたらと思います

学校としては、やはりある意味では戸惑っていて、今までは教科書とノートと筆箱でしたが、そこに端末が置かれて、机も限られたスペースであるなど使いこなすのにまだまだ時間がかかると思いますが、それを応援していただけたらと思っています。

○和地市長 一つの取組としては、例えば七小と九小が新しくなったときに、使える備品は使い続けるとは思いますけれども、教室のレイアウトであったり、鈴木委員もおっしゃっていたように端末を置くのに適した机の大きさであったり、時代に合った学校というものを検討しなければいけないときが来ると思っていたところですが、様々なことがハードは昔の教育のままでソフトが変わってきているところなので、ソフトが変わったものに今度はハードが追いつくという形になるのではないかと考えています。

ほかございますか。大丈夫でしょうか。

いろいろとご意見ありがとうございました。教育長何かありますか。大丈夫ですか。

○岡田教育長 最後に、この東大和市の教育に関する大綱を拝見させていただいたときに、東大和市民、それから子どもたちのことを市が支えていくという姿勢が見える形になっていると思っています。基本理念においても、これまでは割とこういう人になりましょうという感じでありましたけれども、そうではなくて、みんなでこうしよう、盛り上げていきましょう、こういう人になっていくとみんなも幸せになれるでしょうというメッセージが聞こえてくる感じです。

ぜひこれは私の願いですけれども、この教育に関する大綱は誰もが目にさせていただきたいです。市民の誰にも目にさせていただいて、子どもたちにも当然見ってもらって、一度お読みいただけると、東大和市、東大和市教育委員会がこのような方向で子どもたち、また市民のことを考えて施策を進めているということがよく分かると思いました。

○和地市長 皆様ご意見ありがとうございます。

今までの大綱もとてもすばらしい内容であったと思いますけれども、今教育長がおっしゃってくださったように、古い言い方で言いますと女子は良妻賢母のような一つの答えに皆さんを目指させる内容よりも、やはり自分らしさを大切に、一つの色に染めるというよりは市全体が自分らしさの中できれいなモザイク画のような形になればよいと思っていますし、また市役所の職員にも絵が得意な者などもおりますので、もう少し入りやすいような柔らかい挿絵などを入れて、子どもでもめくりたくなるような夢のある内容に体裁を整えられればと思っています。

今回この中で一番良くなったと思うところは、その理念をどうやって実現させるかというところまで、具体的にまではいきませんが、より行動に結びつくような内容になっていますので、可能であれば年に1回のどこかのタイミングで、この施策に関してどれぐらい実現できたか、1年間の社会教育であったり文化活動であったり学校の取組であったり実施した事業を並べてみて、ここが薄いというものが分かったら、その翌年はそこの分野に少し意識して力を入れようかという感じで全体的な見直しができる内容になっていると思います。これが結局先ほどの4つの丸のみですと、どの理念がどの目標に当たるのか分からなくなってしまうので、この施策の方向の中の取組をきちんと確認ができるように1年に1回ぐらいは見ていきたいと思っています。いろいろとありがとうございました。

こちらの教育に関する大綱の案についてでございますが、策定については、今までの皆様のご意見を見ますと、大きく変更しなければならない課題はなかったと思っていますので、最終的にもう1回、てにをは等を含め文言を確認して、その後、必要な事務手続を行って定めていきたいと考えておりますが、それよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○和地市長 ありがとうございます。

今後も委員の皆さまからは、様々な視点から東大和市のより良い教育についてご意見をいただければと思っておりますし、今日皆さまからいただいたこの大綱をベースにしたご意見ですけれども、幅広に捉えさせていただいて、ほかのことにも生かしていきたいと思いました。ありがとうございます。

今後もより魅力のある町、東大和市は教育で選ばれる町という形にしていき

いと思いますので、引き続きのご協力よろしくお願いたします。

◎閉会の辞

○和地市長 それでは、今回、第1回の総合教育会議はここで終了とさせていただきます。

お時間、ご協力ありがとうございました。

午後 2時52分閉会